



「かみなり」

Bちゃん「昨日、うちさ“かみなり”きたんだよー」  
Cちゃん「えっ！うちには“かみなり”来なかったよー！」  
Bちゃん「Cちゃんのうち、遠いから来なかったんだよね」

「結婚するには…」

おばあちゃんとの会話  
Dちゃん「おばあちゃん、わたし、相談があるんだけど…」  
おばあちゃん「なあに？」  
Dちゃん「わたしパパと結婚したいんだけど… ママはどうしたらいい？」

平成22年度白鷹学講座パート①

内田美智子氏講演会

「こころ」〜食卓から始まる生教育〜

子どもに伝えたいたいせつなもの。この話を聞いたあと、必ず子どもを抱きしめたくなります。

いつ 6月29日(火)  
午後6時30分〜8時30分  
(午後6時開場)

▼どこで パワーセンター白鷹  
▼定員 200人  
▼入場料 無料。ただし、入場整理券が必要です。

▼入場整理券取り扱い  
教育委員会、中央公民館  
各地区公民館、パワーセンター  
ター白鷹

すべてのお父さん、お母さん、子どもに関係する方、これからお母さんになるかたにぜひ聞いていただきたい講演です。

内田美智子氏プロフィール

助産師。大分県竹田市生まれ。国立小倉病院付属看護助産師科卒。福岡県子育てアドバイザー。福岡県社会教育委員。昭和63年から産婦人科医の夫と内田産婦人科医院を営みながら、生と死を見つめてきた。九州を拠点に「生」「性」「いのち」「食」をテーマに全国で講演活動を展開。子どもの心の育ちの中での食の大切さを伝え続けている。著書に「ここ」「いのちをいただく」(西日本新聞社)など。



▼その他 会場駐車場が満車の場合、荒砥小学校へのご案内となります。  
託児サービス有(要事前申込)  
■問い合わせ 教育委員会生涯学習係(☎85-6147)

◇過去の講演会参加者の感想  
○自分が子育てした時期を思い出して、いまやるべきことを感じました。  
○次世代につなぐ、行きたるための食の大切さ、こころの育て方、母親の大きな役割をつくづく感じました。

町報川柳 「太陽」

新野三拍子 選

佳作	太陽の恵みに勝る知恵はない	浅立	小形 義三
〃	太陽を背に受けながら散歩道	横須賀	大滝健次郎
〃	太陽のかがやきに似た子の笑顔	浅立	梅津美千子
〃	天真の曾孫太陽家とむ	高岡	長岡みち子
〃	太陽に向かつて土筆勢揃い	荒砥甲	井澤英佐子
〃	雨上がり太陽見える有り難さ	佐野原	竹田 正子
〃	太陽の恵み忘れて愚痴を言う	鮎貝	植木 英夫
〃	太陽の沈む浄土に母眠る	大瀬	五十公野春巳
〃	太陽の拝める位置で生きてきず	畔藤	堀内 芳夫
〃	人生の節目太陽眩し過ぎ	荒砥甲	横山 陽子
〃	若き日の湖畔の入り日鮮明に	横田尻	金田 れん
〃	太陽の恵みの日々に感謝する	高玉	高橋 朝子
〃	太陽のような笑顔で暮らしたい	西高玉	金田 コト
秀句	二日酔い朝の太陽目にしみる	荒砥甲	本間 義康
〃	喜怒哀楽トンネル抜けて陽を浴びる	荒砥甲	五十公野かをる
〃	太陽が真っ赤だ今日も元気です	高岡	須貝 仲次
〃	太陽の恵みに感謝野良仕事	畔藤	菅原 敦子
〃	太陽の恵み豊かな花の郷	浅立	高橋 とみ
〃	過疎地にも陽は均等に降り注ぐ	貝生	保科 努
〃	若き日の太陽今も胸にある	世田谷	遠藤 八重
〃	太陽の季節待てない青りんご	鮎貝	高橋 正
〃	地の果ても平等に照る陽の光	高玉	片倉 時美
五客	太陽と仲のよい子の一等賞	荒砥乙	土谷 灯一
〃	明るさと笑顔職場の太陽さ	藤沢市	田苗 創真
〃	太陽を浴びた野菜に味がある	佐野原	五十嵐とし
〃	太陽の味が足りない冬いちご	十王	守谷 三郎
〃	太陽に吠えた若き日懐かしむ	十王	川部 隆雄
〃	太陽の恵みを受けて農に生き	神奈川	井上 秀雄
〃	初孫の笑顔我が家の太陽だ	山口	児玉 保子
天位	太陽の恵み大地は生きている	十王	鈴木 しげ
軸	命残照沈む夕陽に掌を合わせ		三拍子
次回	「祈る」六月末まで「カルテ」七月末日まで。		
はがきに三句	白鷹町荒砥乙四二八―二	高橋 白兔 宛	